



 日本コークス工業
CORPORATE GUIDE

For Sustainable Society



持続可能 な社会の実現に

貢献できる 企業グループへ。



当社は、2015年にユネスコ世界文化遺産に指定された「明治日本の産業革命遺産」を構成する三池炭鉱をルーツにもち、国内最大の石炭採掘企業として日本の近代化および戦後復興に大きな役割を果たしました。その後、国内石炭産業の変容に伴い、製鉄プロセスや金属精錬に不可欠な「コークス」の製造販売事業を経営の柱に据え、「燃料・資源リサイクル事業」、「化工機事業」と合わせた3本柱で事業を展開し、日本の産業に貢献しています。

現在、コークス製造や燃料販売など、CO₂排出量の多い炭素原料を扱う当社にとって、カーボンニュートラルへの取り組みは重要な経営課題の一つです。

CO₂排出量の低減策として、当社のコークス製造工程においては、石炭の燃焼時に発生するコークス炉ガス(COG)を自家消費し、発生熱をコークス乾式消火設備(CDQ)で電力に変換して事業所の電力として活用するなど、エネルギーの外部調達を要しないエネルギー循環型のエコプロセスを取り入れ、CO₂排出量の削減に努めています。また、燃料販売事業では、石炭の代替燃料として、環境負荷の少ない自然由来エネルギーであるバイオマス燃料の取扱い拡大を図っています。

その他、グループ企業で保有する約4,200haの森林でのCO₂吸収能力の向上、排出したCO₂を回収し新たな炭素材へ生まれ変わらせるCCUS技術の開発により、将来のカーボンニュートラルに向けて挑戦しています。

これらの取り組みを通して、企業価値を高め、全てのステークホルダーから一層の信頼を得られる企業を目指してまいります。

History 沿革

1911年

三井合名会社より独立し、三井鉱山(株)設立。国内最大級の炭鉱会社として日本の近代化の一端を担う。



1889年

三井組が、大蔵省より官営三池炭鉱の払い下げを受ける。

1964年

化工機事業部の前身となる(株)三井三池製作所栃木工場の操業を開始。粉粒体機器の製造販売を行う。



1950年代後半

エネルギー革命進展の中、経営多角化を推進。コークス、機械事業などへ進出。



1993年

三井三池化工機(株)を合併。エンジニアリング部門を強化。



1970年

北九州事業所の前身となる三井鉱山コークス工業(株)を設立し、コークス事業に参入。



2006年

稼働を中止していた1A炉を建て直し、再稼働。



1979年

三井鉱山豪州社[現シドニー事務所]を設立。海外炭を調達するエネルギービジネスを展開。



2009年

三井鉱山(株)から日本コークス工業(株)へ商号変更。日本のものづくりを支え続ける。



2008年

新日本製鐵(株)[現日本製鉄(株)]及び住友商事(株)の持分法適用会社となる。

2015年

三池炭鉱関連施設がユネスコ世界文化遺産に登録される。



Office 拠点紹介

本店

〒135-6007 東京都江東区豊洲3丁目3番3号
豊洲センタービル7階(受付6階)
TEL.03-5560-1311(代表) / FAX.03-5560-1991

事業所・工場・事務所・営業拠点

九州事務所

〒836-0034 福岡県大牟田市小浜町1丁目2番地1
TEL.0944-57-3111 / FAX.0944-52-4002

コークス事業部

- 北九州事業所
〒808-8567 福岡県北九州市若松区響町1丁目3番地
TEL.093-751-9230 / FAX.093-751-8989
- コークス部 大阪営業所
〒564-0051 大阪府吹田市豊津町17番32号
(化工機事業部 西日本粉体技術センター内)
TEL.03-5560-1906 / FAX.03-5560-2909
(本店コークス事業部コークス部)

燃料・資源リサイクル事業部

- 資源リサイクルグループ
〒836-0034 福岡県大牟田市小浜町1丁目2番地1
TEL.0944-41-8873 / FAX.0944-41-5200
- 三池リサイクルセンター
〒836-0034 福岡県大牟田市小浜町1丁目2番地1
TEL.0944-57-3136 / FAX.0944-57-3113
- シドニー事務所
Suite 707, Level 7, 109 Pitt Street, Sydney NSW 2000

化工機事業部

- 営業部 西日本営業グループ・西日本粉体技術センター
〒564-0051 大阪府吹田市豊津町17番32号
TEL.06-6389-3212 / FAX.06-6389-3216
- 営業部 西日本営業グループ 名古屋営業所
〒453-0015 愛知県名古屋市中村区椿町21番 2号 第二太閤ビル 8階
TEL.052-453-8228 / FAX.052-453-8221
- 栃木工場
〒328-8503 栃木県栃木市国府町1番地
TEL.0282-28-1111 / FAX.0282-28-1134
- 上海事務所
〒201103 中華人民共和国上海市長寧区虹橋路1438号
古北財富中心5F57号

Company 会社概要

| | |
|---------|--|
| 商号 | 日本コークス工業株式会社 NIPPON COKE & ENGINEERING CO.,LTD. |
| 本店所在地 | 東京都江東区豊洲3丁目3番3号 |
| TEL | 03-5560-1311(代表) |
| 代表者 | 代表取締役社長 松岡 弘明 |
| 創業 | 明治22年(1889年) |
| 資本金 | 70億円 |
| 売上高(連結) | 1,352億円(2024年3月期) |
| 従業員数 | 単体503名 連結1,022名(2024年3月末時点) |
| 事業内容 | コークスの製造・販売、石炭・石油コークスの販売、化学機器・装置の製作・販売、資源リサイクル事業、物流事業、不動産事業 他 |
| 上場市場 | 東京証券取引所プライム市場 |

Business Introduction 事業紹介

3つの事業とグループ事業で、

産業活動や人々の暮らしに大きく貢献。

私たちは、製鉄や金属精錬に欠かせないコークスの製造・販売、海外石炭や石油コークスなどの輸入販売と資源リサイクル、微粉素材を生み出す粉粒体機器の開発販売など、多面的な事業を展開。産業と社会の持続的発展に貢献しています。



01 コークス事業

国内に2社しかないコークス専門メーカーならではの技術力で高品質なコークスを製造。産業の基盤となる製鉄や非鉄金属の精錬に欠かせないコークスの生産・供給を担っています。製鉄会社などへの安定供給を図るとともに、製造時の環境負荷軽減にも積極的に取り組んでいます。



コークス



コークス炉



装炭車

02 燃料・資源リサイクル事業

発電施設や化学・製紙・セメント工場などに必要な石炭や石油コークス、そしてカーボンニュートラル燃料であるパームヤシ殻（PKS）を世界各地から調達し、安定供給を図っています。

石炭に関しては、海外炭の輸送・保管・石炭灰のリサイクルまで一貫して行うコールチェーン（石炭一貫供給体制）を構築しています。



石炭ヤード
（響コールセンター）



石炭揚陸設備
（アンローダー）



PKS
（パームヤシ殻）



汚泥焼却高速流動床炉

03 化工機事業

工業製品から食品まで、製品づくりに用いられる多様な粉粒体を製造するための機器やプラントを開発・製造しています。高性能流動式混合機「FMミキサ」といった業界のスタンダードマシンをはじめ、持続可能な社会に適合したエネルギー効率の良い機器の開発を積極的に展開。お客様のニーズに合った製品を国内外に提供しています。



MSC-MILL MSC220
メディア攪拌型湿式
超微粉碎・分散機



SC-MILL SC100/32
メディア攪拌型湿式
超微粉碎・分散機



アトライタ MA01SC
湿式メディア攪拌型
粉碎機



FMミキサRCタイプ
高速流動式混合機



COMPOSI
粒子設計装置



ニーデックス MOS100-500
オープンロール連続混練機

04 グループ企業

日本コークス工業のグループ企業各社は、森林経営、燃料販売、港湾運送、機器エンジニアリング、情報システムなど各専門領域で、お客様に高い価値を提供しています。

● 三美鉱業株式会社

● 日本コークス工業東北株式会社

● サンテック株式会社

● サン情報サービス株式会社

● 有明機電工業株式会社

● 三池港物流株式会社

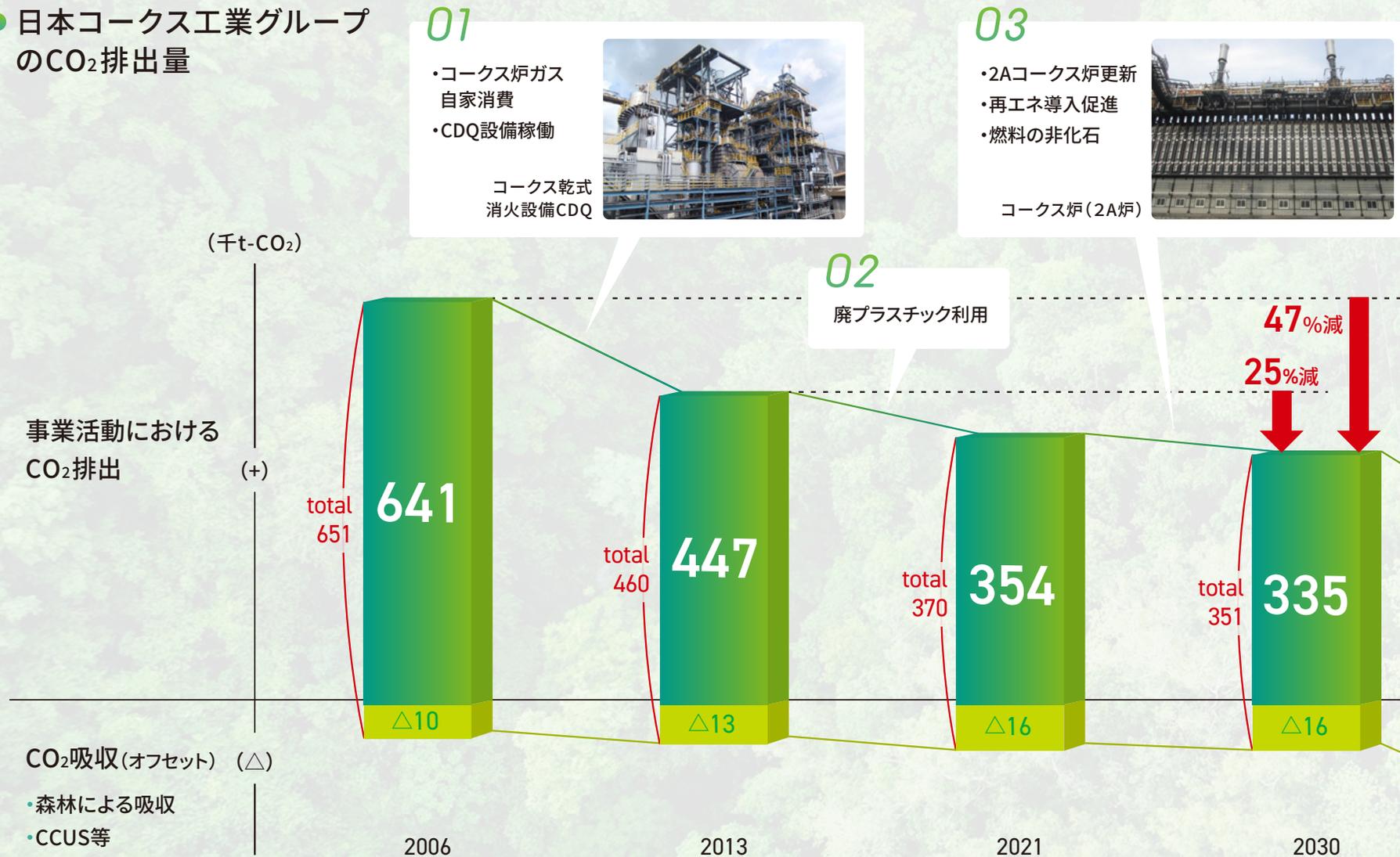
HPはこちら



Sustainability サステナビリティ~持続可能な社会づくりに向けて~

カーボンニュートラルに向けたロードマップ

● 日本コークス工業グループのCO₂排出量



04

カーボンオフセット対策等含め、カーボンニュートラルに挑戦

1) CO₂排出量の算定方法

日本鉄鋼連盟の「カーボンニュートラル行動計画」に基づき算定（*）赤字はCO₂排出量とCO₂吸収量の合算値

2) CO₂排出量の換算係数

出典：経済産業省・資源エネルギー庁「エネルギー源別標準発熱量・炭素排出係数一覧表」

3) 森林によるCO₂吸収量の算定方法

当社グループ会社（三美鉱業社）が所有する森林の面積、樹種、平均樹齢、樹種別CO₂吸収係数より、当社が試算した人工林と天然林の合計値

4) CO₂排出・吸収量の集計範囲

当社（資源リサイクルグループ、西日本粉体技術センター、シドニー事務所、上海事務所を除く）、並びにグループ会社（三美鉱業、日本コークス工業東北、サンテック、サン情報サービス、有明機電工業、三池港物流）

05



森林吸収
三美鉱業社が北海道に所有する森林

0

・森林吸収
・CCUS等
(CO₂の回収・
利用・貯留)

2050

(年度)

サステナビリティ取り組み方針

私たち日本コークス工業グループは、企業理念に基づき社会の持続的な成長への貢献と企業価値の向上を目指し、積極的に社会的責任を果たすことに努めます。

- 1 安全・環境・防災への取り組み
- 2 地域・社会への貢献
- 3 人権尊重・人財育成
- 4 ステークホルダーとの良好な関係維持

カーボンニュートラルへの取り組み

- 1 自社コークス製造活動で排出するCO₂の削減
(省エネ等による削減)
- 2 カーボンオフセットによるCO₂排出量の削減
- 3 カーボンフリーエネルギー事業検討
- 4 カーボンニュートラル社会実現への貢献



NIPPON COKE & ENGINEERING



日本コークス工業株式会社

〒135-6007 東京都江東区豊洲3丁目3番3号 Tel. 03-5560-1311

<https://www.n-coke.com>

